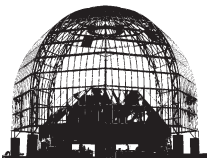


SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

ヤマメ

【英名】 Masu salmon

【学名】 *Oncorhynchus masou masou*

渓流を代表する魚の一種で、体側にパーマークという小判型の模様を持っています。色彩の美しさや味の良さから釣りの対象魚として人気が高く、広く親しまれています。河川の上流域にある渓流は、水温が低く、小さな滝のように流れの急なところが多いという特徴があります。周囲は木々におおわれており、そこから水に落ちる昆虫やクモといった陸上の生き物は渓流にくらすヤマメなどの重要なエサになっています。「水辺の自然」エリア「渓流」水槽でも、水面を見ながら流れに逆らって泳ぎ、落ちてくる昆虫を狙う様子を観察できます。涼しげな景観を見ながら、のんびりとヤマメの動きに注目してみてもいいのではないでしょうか。

(飼育展示係 市川 啓介)

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 間近で観察! アミメハギの繁殖行動
- エサの確保にひと苦労 コウイカを育てる

なぎさNEWS

- 次はおとなをつかまいたい! 「西なぎさ」のアナジャコ
- なぎさで探そう! こんな生き物「ウリタエビジャコ」

水族園のもう一つの顔

- 「スイミー」の教材集を公開!
- コウイカの釣り採集

TSLP LATEST



Vol.21 No.4 2023

AUGUST

通巻

111



SEA LIFE TOPICS

間近で観察! アミメハギの繁殖行動

「東京の海」エリア「イキモノマヂカ」では、アミメハギという小さな魚を展示しています。水面近くにいるアミメハギたちを間近で観察してみましょう。眼をキョロキョロと動かす様子や透明なヒレをつかって泳ぐ姿を見ることができます。こういった普段見られる行動の他に、繁殖期にはとても面白い行動が見られます。アミメハギの繁殖期は春から秋。この時期に水槽をのぞいてみると、第1背ビレや尾ビレが黒っぽいアミメハギがいます。これはアミメハギのオスです。オスを見つけたら動きに注目してみてください。体を少しかたむけながらゆっくりと他の個体に近づき、第1背ビレや尾ビレを大きく広げ上下にパタパタと動かします。これは、メスへの求愛行動です。アピールがうまくいくと、メスは水槽内の壁や擬海草に産卵します。ときには、産卵前の1匹のメスを複数のオスが追いかける「産卵行列」という行動がみられることもあります。産卵が終わるとオスはどこかへ行ってしまいますが、メスはすぐに卵保護をはじめます。卵がふ化するまでの約3日間、周りに近づいてくる他の個体を追い払ったり、十分な酸素が卵にいきわたるように口で水を吹きかけたりして守るのです。

「イキモノマヂカ」の水槽をのぞくと、一生懸命メスにアピールするオスや卵を守るメスの姿を間近に見られるかもしれません。

(教育普及係 向平 のえる)



オス



メス

オスは繁殖期になると第1背ビレや尾ビレが黒っぽくなる



擬海草に産みつけた卵を保護するメス

エサの確保にひと苦労 コウイカを育てる



獲物を狙っているコウイカの稚仔

コウイカの寿命は約1年と短く、東京湾に生息する個体は3～5月ごろの繁殖期を過ぎるとその生涯を終えます。水族園では現在、昨年採集したコウイカが産んだ卵から孵化した稚仔(子ども)を育てています。この稚仔を育てる上で一番頭を悩ませるのが、エサの確保です。

コウイカは本来、生きたエビや魚を食べるため、基本的に動いている生き物をエサとして認識します。また、大量にエサを食べ急速に成長するため、絶えずエサが食べられる状況をつくらなくとも育てられません。飼育の際は流通しているエビや魚など動かないエサに慣れさせることもできます。しかし、育成初期の段階でコウイカがうまくつかまえられる大きさのエサが手に入らなかったり、成長に必要な給餌回数がまだわからなかったりするため、試行錯誤をしてコウイカを育成しています。

ふ化後しばらくはイサザアミという小さな甲殻類をあたえ、ある程度大きくなったら、葛西海浜公園「西なぎさ」で採集し

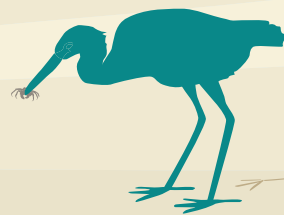
た小型のハゼ類などをあたえています。しかし、このときにコウイカの成長段階に合ったエサが採れるとは限りません。飼育担当者から見て食べられる大きさだと思っても、少しでも大きさが合わないと食べてくれないのです。また、エサとして適した大きさの生き物はどんどん食べられるため、またすぐに採集に出かけることとなります。

こうしたエサの確保に悩みつつも、現在、バックヤードの水槽ではコウイカが成長中です。ある程度まで大きくなると、アマエビなど市場に出回っているエサのみで育てられるようになるため、そこまで育ったら「東京湾にもいるこんな生物」水槽で展示したいと思っています。(飼育展示係 古橋 保志)



おとなのコウイカ

なぎさ NEWS



次はおとなをつかまえたい! 「西なぎさ」のアナジャコ

今年の5月、「西なぎさ」で大きさ1cmほどの小さなアナジャコを見つけました! アナジャコは、エビやカニと同じ十脚目にふくまれる生き物で、成長すると10cmほどの大きさになります。泥地にY字型の巣穴をつくり、その深さはなんと2mをこえることもあります。今回のアナジャコはまだかなり小さく、巣穴が深くなかったため、スコップで運よく掘りだすことができたのでしょう。近年「西なぎさ」では、アナジャコが増えているようで、改めて泥地を掘ってみるとアナジャコのおぼしき巣穴がたくさん現れました。断面が丸く、内壁が滑らかでしっかりしており、ほぼまっすぐ下に向かって掘られていることがアナジャコの巣穴の特徴です。じつは、アナジャコは昔から食用としても利用されていて、深い穴の中にいるアナジャコをつかまえる良い方法があります。書道で使う筆を巣穴の中にさしこみ、それを追い出そうとするアナジャコが入り口付近まで出てきたところをすかさずつかまえるのです。文章で書くように簡単にはいかないのが面白いところ。今年の夏は、アナジャコ釣りに挑戦してみませんか? (教育普及係 宮崎 寧子)



子どものアナジャコ(大きさ約1cm)



おとなのアナジャコ

なぎさで探そう!
こんな生き物

見つけやすさ ★☆☆☆☆

サイズ 全長3cm

見つけるコツ

潮が引いた干潟にできる水たまりのような「しおだまり」の底をじっくりさがしてみよう。たまに砂の上をシャカシャカと歩く姿が見られるかも!?

一見なにもないようなところでも、砂の中に潜っているかもしれない。そんなときには、網で砂ごとすくうと見つけれられるよ。

ウリタエビジャコ (エビジャコ科)

■ウリタエビジャコはこんな生き物

「西なぎさ」でもたくさん見られるエビジャコのなかま。体がべちゃんこだからヒラメみたいに砂の中に潜るのにびったり。たくさんいるはずなのに砂の中に潜っていたり、砂の上にも模様がかたすなにそっくりだったりしてなかなか見つけられないよ。干潟ではスズキやマハゼなどいろいろな生き物のエサになっている。水族園でも育てているコウイカの赤ちゃんにエサとしてあたえることがあるんだ。

(飼育展示係 関 啓汰)



ウリタエビジャコ(動物大)

水族園 のもう一つの顔

「スイミー」の教材集を公開!

「スイミー」を題材にした学校の先生向けパッケージ教材をホームページで公開しました。水族園の生き物たちを授業に活かしてもらいたい、子どもたちと生き物の観察を楽しんでもらいたい、といった思いから教育普及センター（総務部）と協働で開発した動画教材です。

レオ・レオ二作の絵本「スイミー」。小学校の国語で習った方も多いいのではないのでしょうか。水族園では、スイミーたちのように群れになって泳ぐ魚や、マグロ、クラゲなど、絵本の中に出てくる生き物の実物を見ることができます。学校現場で実際に使ってもらえる教材にするために、小学校を訪問し、先生にヒアリングをして、意見や要望を聞きながら何度も改善を重ねました。例えば、動画は長くても30秒ほど、音声解説やテロップをあえて入れない、などです。また、印刷してつなげるとクロマグロの最大サイズ3mになる実寸大シートや、お話には登場しませんが、形態的に特徴のある海の生き物の動画など、授業がさらに楽しくなる教材も用意しました。学校の先生や子どもたちだけでなく、「スイミー」ってなつかしいなと思った大人の皆さんもぜひご覧ください。（教育普及係 田中 隼人）



「スイミー 葛西臨海水族園」で検索!

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 6/14 ニホンコウノトリを多摩動物公園へ搬出
- 6/14 「海鳥の生態」水槽でクロソイ10尾を展示
- 6/15 オウサマペンギンとミナミワトペンギンをバックヤードに移動
- 6/21 「深海の生物 1」水槽でベニテグリの展示
- 6/21 タンチョウを沖縄こどもの国へ搬出
- 6/29 「発光生物」コーナーとウミホタル発光実験ガイド再開
- 7/1 ドリームナイト・アット・ザ・ズ&アクアリウム in Tokyoを実施
- 7/11-13 伊豆大島で設置型ライトトラップ採集を実施
- 7/14 トピック水槽でニザダイ科の一種を展示
- 7/17 トピック水槽でチョウチョウオ科の一種(トリクチス幼生)を展示
- 7/22-23 江戸川区特産金魚祭りに4年ぶりに出展
- 7/23 高校生・大学生向け「海の学び舎」第1回を実施

コウイカの釣り採集

コウイカは、たくさんのスミを吐くことからスミイカともよばれ、東京湾の冬の船釣りの代表的な釣り物の一つです。寿命は約1年で成長は早く、海底付近にすんでいて、甲殻類や底生の魚類などたくさんのエサをとります。水族園では初冬に船釣りで採集していますが、その方法はプラスチックや布などでできたエギまたはスツテという疑似餌を使い、水深20～50mの底に沈めて釣ります。この“にせもの”のエサを本物のように演出するポイントは2つ。①しかけを常に海底から30cm以内にあるようにする。②8～10秒に1回、釣竿をおおる（釣り用語では“しゃくる”という）。これらを実行すれば、だれでも釣れる可能性があります。さて、釣り上げてからも注意が必要です。イカのスミはねばり気が強く、えらなどからみついて呼吸困難になることがあります。イカを刺激しないように海水を入れた水槽に慎重に収容します。船から水族園に運ぶ際にもスミ被害を最小限に留めるため、10Lの海水を入れた袋で1杯ずつバックして輸送します。当然、車の運転も普段以上に慎重にすることは言うまでもありません。

（調査係 池田 正人）



スツテとよばれる疑似餌を使ってコウイカを釣る

編集後記

夏の暑い日は水槽の中にいる生き物を眺めていると涼しい気分になれます。わたしのおすすめは、今回の表紙でも紹介された「水辺の自然」エリアの「溪流」水槽。まるで山奥の溪流を横からのぞいているような景観と、流れに逆らって泳ぐヤマメなどを見ることができます。茹だるような暑さの日には水族園で水の中の世界に入り込んでみては？（田中）



TOKYO
SEA LIFE
PARK

SEA LIFE NEWS 通巻 111

Vol.21 No.4 2023 AUGUST 8月1日発行（次号は2023年10月発行予定）

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

